

「スーパーエンジニアの肩書に 負けないようにもっと勉強」

金融システム第3部 部長補佐 スーパーエンジニア 渡久山奈津美さん



「たくさんの方々を支えられて、たくさんのお仕事を任せていただき、いろいろなことに挑戦することができました。私がスーパーエンジニアに選ばれた理由はそれだと思っています」

大規模コンタクトセンターのシステム構築・運用など大型案件を手がけ、社内外から高い評価を受ける渡久山奈津美さんは、その実績とは裏腹に謙虚な声で答えた。

「プロジェクトを成功させるコツは様々ですが、チームを組むときの私なりの進め方があります。いろいろな立場のスタッフがひとつの仕事をやるわけですから、スタッフの間に温度差があるわけです。それを口頭で調整しながら調整していく。顧客企業、パートナー企業と連絡を密にしながら温度差がなくなってきたとき、目標がくつきり見えるのです。それが成功への第一歩ですね」

語る。自分のチカラを誇示するのではなく、周りへの気遣いと生きた言葉で、スタッフのモチベーションを高める術は、学校では教えてくれない。仕事の現場でもまれながら身につけた独自の才なのだろう。

「新しい案件はほとんどが以前に組んだ方からの指名です。顧客企業からも声がかかります。私って使われやすいタイプみたい(笑)」

人を惹き付ける自然体の魅力。渡久山さんがスーパーエンジニアになった最大の理由がそこにあることは間違いなからう。インタビュアの最後に就職活動をする方へのアドバイスをお聞きした。

「今は面接する側になりましたが、やはり大事なことはよく気がつくことですね。少し多めに周りを見て行動できれば、仕事もうまく回るものです。就職活動でも社会に出てからも、とても大切な能力だと思います」

スーパーエンジニア認定制度：特定分野の立派な技術力とヒューマンスキルを持ち、顧客企業や社会にCTCの技術を広めることができるエンジニアを認定する制度。

No.1を育てる 制度がある。



学生時代は海外のコンピュータ業界には興味があったという野中正喬さん。それを変えたのはCTCだった。

「ストレージ関連の技術検証や営業サポート業務をしています。CTCはオープン系のS-I(システムインテグレーター)なので、海外の優れた技術や最先端の製品がどんどん入ってきて、直に扱うことができるわけです。すばらしい技術を目の当たりにして、もうとにかく海外に行ってみたい、学んでみたい、と」

嬉しいことにCTCには海外ベンダーパートナー企業へのインターン制度があった。そして年間40人前後がそのプログラムに参加しているという。社内に語学研修の制度も整っていた。

「上司にさかんにアピールしました。チャレンジ精神だけは旺盛で自信がありましたから」

念願叶って、野中さんは米国のベンダーパートナー企業へインターンとして立つ。入社4年目の去年の2月のことだった。日本の企業から研修に来ているのは野中さんひとりだった。

「発売を控えた製品の最終段階でのテストインゴが主な仕事でした。米国の技術者の層の厚さに圧倒されました。想像以上でした。でも負けるわけにはいかない。『CTCから来た技術者はこんなレベルなのか』と思われたくない一心で、無我夢中で働きました」

1年間に渡る研修によって野中さんが会得したものは、最先端の技術力とプロとしての責任感、そして将来への大きな夢であった。

「いつの日か、海外のトップ技術者たちと肩を並べ、グローバルな舞台で技術開発を競ってみたい。その夢に向かって自分を高めていきたいですね」

「自分の大きな夢を発見した 海外インターン制度での経験」

IT基盤ソリューション技術部 Storage基盤技術課 野中正喬さん

海外インターン制度：社員を海外のベンダーパートナー企業にインターンとして留学させ、先端技術のエキスパートとすることで、CTC全体のレベルアップを図るための制度。

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
〒100-6080 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル

<http://www.ctc-g.co.jp/>



Challenging Tomorrow's Changes

CTC Seminar

申し込みはこちらから



www.ctc-g.co.jp/recruit